

# 寸言

横浜ゴム株式会社  
航空部品事業部長  
長尾 亨



## 航空宇宙産業と「環境貢献」

横浜ゴム株式会社は2017年に創立100周年を迎えるにあたり、「企業価値・市場地位において独自の存在感を持つグローバルカンパニーを目指す」ことを目標に掲げ、中期経営計画「グランドデザイン100 (GD100)」達成に向けて邁進しております。また同時に「環境GD100」として、トップレベルの環境貢献企業になるための各種活動を行っています。それらの中には、国内外の生産拠点を中心とした植樹活動「千年の杜プロジェクト」、生物多様性保全活動等ユニークな展開があるほか、製品の技術開発、生産においても、環境貢献といった視点にて取り組んでいます。

当社の製品として皆様にもっとも身近なものはタイヤではないかと思われます。最近のエコタイヤでは、低燃費性能、地球環境に優しい原材料の採用等の環境性能を高め、「青い地球と人を守る」とのメッセージとともに製品を送り出しています。「地球温暖化防止」、「資源再生・循環」、「省資源」、「安全・快適性」の4つの環境機能に評価指標を設定し、基準を満たすものを「環境貢献商品」と位置づけております。環境GD100においては、「2017年までにすべての商品を環境貢献商品にする」を目指し活動しています。

航空部品事業においても環境貢献商品化率の向上に取り組んでおりますが、これを推進するにはいくつかの課題があります。当社に限らず、業界特有の事情と考えますが、10年以上も前に設定された仕様にて現在および今後も生産を継続する製品が数多くあります。これではタイヤのように新商品との入れ替えで環境貢献商品化率を上げていくことは困難で

す。よって、既存商品を環境貢献商品として生まれ変わらせることなくして目標を達成することはできません。

材料、構造の見直しにより、製品機能の向上、軽量化、リサイクル率のアップを図ることは技術的に可能なものも数多くあり、新商品、改善品の投入機会が多い民航製品においてはそれらを適用した開発を進めております。既存製品に各種変更を適用する際には、変更による性能への影響評価、手続き等が必要となります。今後もある程度の量の調達が予想されるものについては、これらのコストも考慮し変更の適用を行っておりますが、今後の調達数量がそれほど多くない製品については変更適用を躊躇せざるを得ないのが実状です。

既存商品の環境貢献化率向上につながる取り組みとしては、製法に関するものが中心となります。多くの製品に適用されている洗浄工程の設備更新、プリプレグ製造に用いる溶剤の回収装置設置等による環境負荷軽減は設備面からのアプローチです。また非常に地道な活動ではありますが、製品個々の材料取りを工夫し、製造時に発生する屑を少しでも減らそうと製造現場で取り組んでいます。

世の中から先端技術産業と見られている航空宇宙産業は、環境面でもリードする立場でいなければならないと考えます。現状は他産業に遅れを取っている部分もあるかと思いますが、皆様と一緒に環境に優しい航空宇宙産業を目指していく所存です。よろしくお願いたします。